

【表2-6 削りかけ資料：四国】

地域	時期	名称	製作			形状			用途 ほか	表 象 物	文 献		
			材の樹種	伐採時期	製作道具	削り	組合せ	その他					
<b>徳島県</b>													
石井町	(字不明)	小	たずの杖	ニフトコ 〈たず〉	—	—	○	2本1組	—	供(小豆粥・萱箸と共に神様へ)→杖に御幣をつけ、あき方に〈歳徳神〉を導き、杖を立てて送る(上り正月)	—	1	
		浦庄	小	たづの箸	〈たづ〉	—	—	?	2本1組	—	供(粥と共に神棚へ)→箸に粥をつけ、柱を叩いて(正月の神様)をお送りする。箸は門の柱に立てる	—	2
徳島市	勝占	小	棒	クリ・〈樫〉・ 〈柳〉・ウツギ おつけ	—	鎌	○	2本1組	—	供(恵方棚)→15日〈あがり正月〉に門の近くの畑に突き刺し、神を送る。小豆を煮た汁を棒につけ、家中の柱を叩く家も	—	3	
	国府町	小	ごうづえ	〈タズの木〉	—	—	○	2本1組	—	供(正月神)→門口の両脇に立てる／※これを杖に神様が帰ると言う	杖	4	
	加茂	小	ホグセ	〈樫〉	初の子の日 〈子遊び〉	—	—	○	—	頭部十字	頭部にシキミの葉を挟み、15日〈上り正月〉に家中の柱に粥を供え(歳徳神)を送る→「成り賜え」と唱えながら樹木の根元に立てる	—	5
上勝町	(字不明)	小	樫の棒	〈樫〉	—	—	○	—	—	頭部十字	頭部に若葉を挟み、15日〈上り正月〉に家の柱に粥を備える	—	6
			カイ杖	サカキ	—	—	?	—	—	—	—	15日〈上り正月〉に成木の根元を叩いてまわる(なりよし)	—
那賀川町	中島	小	福杖 (ふくづえ)	〈柳〉	—	—	○	2本1組	—	—	正月の注連縄を焚いて作った粥の汁を12回かけ、年棚に供える→拝み終わると庭の明きの方にある木の下に立てる	—	7
	手島	小	福杖	〈柳〉	—	—	○	—	—	—	15日〈神送り〉に正月の注連縄を焚いて粥を作り、福杖を床に供える	—	7
	芳崎	小	福杖	—	—	—	?	—	—	—	小豆粥を付け「来年とうかえあ」と唱えながら家の柱を叩く	—	7
羽ノ浦町	(字不明)	小	福杖	〈柳〉	—	—	○	2本1組	—	—	15日〈あがり正月〉に、粥と共に正月の棚に供える→粥を付け、正月棚・大黒柱・トノグチ・窓などを叩いてから、庭で〈アキホウ〉に向かって刺した。正月様が杖について帰ると言う	杖	8
鷲敷町	(字不明)	小	杖	〈かし〉 〈ねむ〉	—	—	○	—	—	頭部切込	14日に粥を炊いて供えた後、頭部に葉を挟んだ杖を門先に立てて拝礼し、15日〈上り正月〉に正月の神様を送る	—	9
相生町	(字不明)	小	杖	〈かしの木〉	—	—	○	2本1組	—	頭部切込	頭部にゆずり葉を挟み、15日〈上り正月〉に炊いた粥と共に神棚に供える→杖で家中の柱に粥を付け、最後に門先に立てて正月の神様を送る。正月神は女で、杖は男根、粥は精液と言う	男根	10
日和佐町	(字不明)	小	粥柱・粥杖	〈樫〉〈椎〉 〈ふし〉	—	—	○	—	—	頭部切込	頭部にゆずり葉を挟む(家によっては12葉)。15日〈上り正月・送り正月〉に粥柱で家の柱に粥を付け、最後に門先や畑に立てて正月の神を送る／※削りは12片に削る	—	11
		北河内 (大戸)	小	カイ柱・ カイ杖	ウバメガシ 〈ウマメ〉	1・4 〈山の口明〉	—	○	—	—	頭部十字	頭部にユズリハ・イヅリハ(12葉)を挟む。14日に粥と共に供え、15日〈上り正月〉に杖で祭具や家中の柱を叩いて神を送る。最後に屋敷外の畑に立てる／※削りは12片に削る	—
牟岐町	出羽島	小	カイ柱	ウバメガシ	—	—	○	—	—	頭部十字	14日に焚いた粥を柱に付け、15日朝に床間の餅や家中の柱を突いて廻る→屋敷外の畑地に立てる	—	13
上那賀町	(字不明)	小	箸	クリ・〈つけ〉	—	—	○	—	—	—	15日〈上り正月・送り正月〉の粥を箸で家中の柱に付け、最後に門に立てて神を送る／※削りは12(閏年は13)片に削る	—	14
貞光町	(字不明)	小	箸	〈フシ〉	—	—	?	—	—	—	15日〈上り正月〉の粥を箸に付けて家中の柱を叩き、神送りをする。最後に家の明方に立てる家も	—	15

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】	
半田町	(字不明)	小	ごう杖	コウゾ	—	—	○	—	頭部切込	頭部に半紙を挟み、家の明方に立てる	—	15
			送り箸	ヌルデ<フシ>・<桐>※	—	—	○	—	—	供(正月神)→15日<送り正月>に炊いた白粥を箸に付け、家中の柱を叩き、成木にも粥を付ける。最後に門松や大木の根元に供える／※ヒノキや<梶>を用いる家も	—	16
			ゴウ杖	<梶>・ヒノキ・<キリ>	—	—	○	—	—	寺の<堂開き>に持参して頭部に<ゴウ杖札>を挟み、護摩供養の間、堂の板を叩く→持ち帰り神棚や仏壇に供える→苗代や苗床に立てる	—	16
	八千代(上喜来)	小	ゴウツエ	コウゾ	—	小刀	○	—	頭部切込	頭部の一文字の切込に半紙を挟み、15日の粥を付けて大黒柱を叩いた後、門先に立てたり神棚に祀ったりする。正月神はゴウツエに乗って帰ると言う	—	13
三加茂町	(真言宗の家)	小	(うるしの木)	ウルシ※	—	—	○	—	—	15日<送り正月>に炊いた粥を付け、柱を叩く／※ウルシがない場合は<ハゼ>を用いる	—	17
三野町	〃	小	(田鶴の木)	<田鶴の木>	—	—	○	—	—	15日<送り正月>に炊いた粥を付け家の柱を叩いてまわる	—	18

### 高知県

安芸市	入河内	大正月	削り掛け	シロブカガシ	—	—	○	—	—	供(お正月様の棚)→苗代の水口に立てる／※一端を削りかきにし、もう一端にカヅラを巻く。稲穂に見立てたもの	稲穂	1
	川北	大正月	ハカマ木	<樫>	—	—	○	—	—	供(エビス棚)→田植の際、水口に立てる	—	1
	畑山	小	粥箸	<樫>	—	—	○	—	—	<十五日粥>を粥箸で成木につける→供(エビス棚)→苗代の水口に立てる	—	1
	岩戸	小	粥箸	<樫>	—	—	○	—	—	<十五日粥>を粥箸で成木につける	—	1
夜須町	(字不明)	小	かいばし	<樫>	12・13<正月始め>	—	○	—	頭部切込	柱餅をはさんで、柱を叩く→成木責め	—	2
野市町	(字不明)	小	粥箸	<樫>	—	—	○	—	—	供(神々)→床・四方の柱・大黒柱などを叩く。粥を塗る場合も→成木を叩く／※これを持って子供や若衆が門付けに行く場合も<かいばし>	—	3
梶原町	四万川	小	チンポ	—	—	—	○	—	2本1組	供(女神である竈のおかま様に供える)	男根	4

### 愛媛県

新宮村	(字不明)	1・11	カシ	<樫>・ウメ	—	—	○	水引結ぶ	—	家中の柱を叩いて長虫が入らない呪いとする／※1月11日は<帳祝い>	—	1
肱川町	予子林	小	アワンボ	<フシの木>	—	—	○	竹に付ける	—	供(戸口等、注連飾をする所)	作物	2
瀬戸町	川之浜	節分	(カイツリ)	<フシの木>	—	—	○	竹に付ける	—	子供達がこれを持って門付、菓子や銭を貰う<カイツリ>	—	3

### 香川県

白鳥町	入野山	小	ダイコンギ	ヌルデ<ふしの木>・カラギ	1・14※	—	○	2本1組	—	供(神棚)→15日早朝、その年のアキの方にダイコンギを立てシラガユを供える<送り正月>／※削りは2本合わせて12片になるよう削る(閏年は13片)。<フシの木>前年から目星をつけておく	—	1
塩江町	杵野	小	(大根※)	<はぜの木>	—	—	※	—	—	15日の粥を付け、戸口の柱を叩き「オカユ、オカユ(お帰りお帰り)」と叫んで<歳神さん>を送り出す<歳神おくり>／※「切りもとを少し残して皮をむいた物。大根に見立てており、その年、大根が豊作になるように願ったものとされる	大根	2
坂出市	大越町	※	ノボリ	—	—	鮑	※	—	—	新造船をおろす際、現金払いの時だけノボリを立てた／※一間位の木のカンナ屑を下げたもの。大工のご幣という	—	3